

## ヒヨッコとタマゴ

今坂柳二

「殿さま井戸」ちゅう言葉が今も残っております。白髭さまの辺りから、その井戸っていわれておりますところを過ぎ、柳沢から内出になります。その一番カミが一段と低い、ついさっきまで家があったところを掘っているのを見たら、道路から背丈より三尺も高いんです。入曾のナナマガリに近い。

ここまでは現場説明で、これからが昔話であります。

白髭さんの本殿寄り、いちばん近くが九十何歳とやらになるおワカばあちゃん。わしが近くに行くと、たちまち元気いっぱい、若々しい言葉が風と一緒に飛び込みます。

「あんときゃあ幾つだったやあ、まあだ学校へ通ってたんべえ。そうか、じゃあよく覚えていらあなあ、うん、いちば覚えてる年代だあ。語り部はそのくれえな年頃が一番ええんだ。どうだい、今日も語りっこするか？」

おらがじゃあな、あの年のあの晩、ヒヨッコが卵からかえってよ、ピヨピヨ鳴いてんだよ。ピヨピヨ鳴いていてよ、そのうえにな、いちばんおっかねえ、あれだい、発動機が一台に四つずつくっついてるあの、あれよ、ビー29だんべ。父ちゃんなんぞ消防団でとんで歩つるし、ピーチクパーチクなんぞ、すっかり忘れ果てちまつた。子供たちのことでさえそんなでな、頭の上だけがおっかなかつた。鳥っ子カンゴへよ、手近におっぼり出してあったムシロだかササミノだったか放り投げるのが、せい一杯だあ。

で、翌朝。家へ戻って見たらなあ、錠口のカンゴン中に、首を外に向けた十羽のヒヨッコが首い揃えて炭っここれになってたんだ。かわいそうにな。天上のオシヤカさまが地獄の底を眺めるようなアンバイでな。まったく神も佛もあつたもんじゃねえでさ。

註：昭和二十年五月二十六日、入間市春日町から狭山市笹井にかけての地域が空襲に見舞われた。この空襲による死者は十五名、罹災者は三百四十六名。B29が落ちた焼夷弾は五千発にのぼると言われている。

いまさか りゅうじ

狭山市笹井在住。二十四歳から俳句に関わって、現在同人誌「つばさ」代表。かたわら、昔ばなしの採集・採話を続け、「龍じいの昔ばなし」以下十冊発行。

### 編集後記

青少年文化体験フェスタが終わり、ほっとする間もなく、芸術祭実行(委)が活動開始。私も「民謡のつどい」秋の文化祭(民謡・ハーモニカ)仕上げ時期に、会報・芸術祭印刷会議と立て続けにあり、更に加入する市老人クラブ連合会の広報担当となり、忙しい夏。楽しみにしていた盆踊りが無事に終わり、ゆかた姿で踊れて嬉しかった。会報メンバーは相変わらずの小人数ですが、手助けして頑張っています。

(高沢正夫)